

### (7) 仕事を改善している職場

図2は、「PDCA サイクルを回して仕事を改善している」と「仕事は面白い」のクロス集計結果を示したものである。図中のAは「仕事を改善している」という問いに「当てはまる」と回答し、Bは「やや当てはまる」、Cは「あまり当てはまらない」、Dは「当てはまらない」と回答したことを示している。

Aの棒グラフに示されている47.9%は、「仕事を改善している」という問いに「当てはまる」と回答した人の中で、「仕事は面白い」という問いに「当てはまる」と回答した人の割合である。仕事を改善していることが当てはまらなと回答した人のうち、仕事が面白くないと答えた人は22.7%なので、仕事を改善していることと仕事は面白いことの間には、強い相関関係があると考えられる。

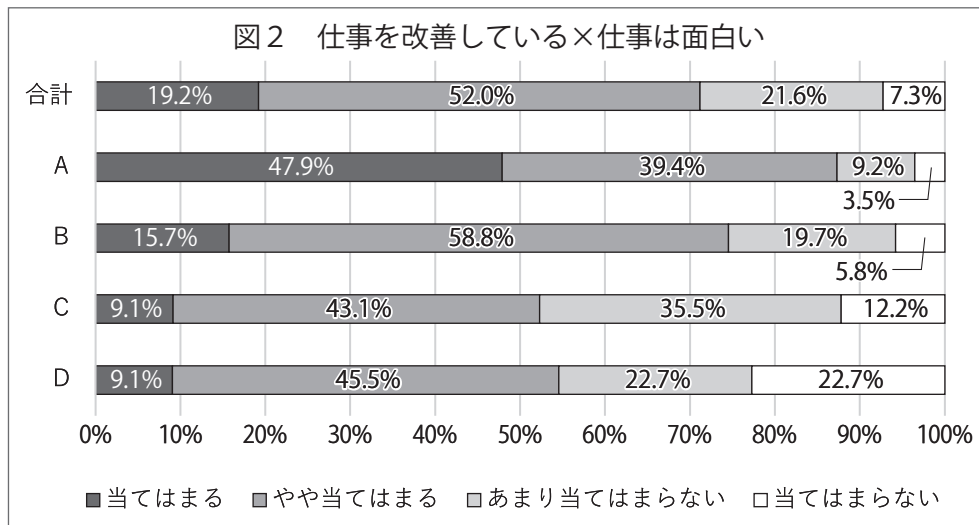


図3は、仕事を改善していることと仕事にやりがいがあることのクロス集計結果である。仕事にやりがいを感じていると、もっと価値の高い仕事をしたいという気持ちが生まれ、業務創造に向かおうとすると考えられる。A、B、C、Dは図2と同じである。

PDCA サイクルを回して仕事を改善している職場では、52.1%の人が仕事にやりがいがあると感じているのに対して、改善していない職場では13.6%がやりがいを感じていない。仕事を改善する職場であることとやりがいを感じるの間には、強い相関があると考えられる。

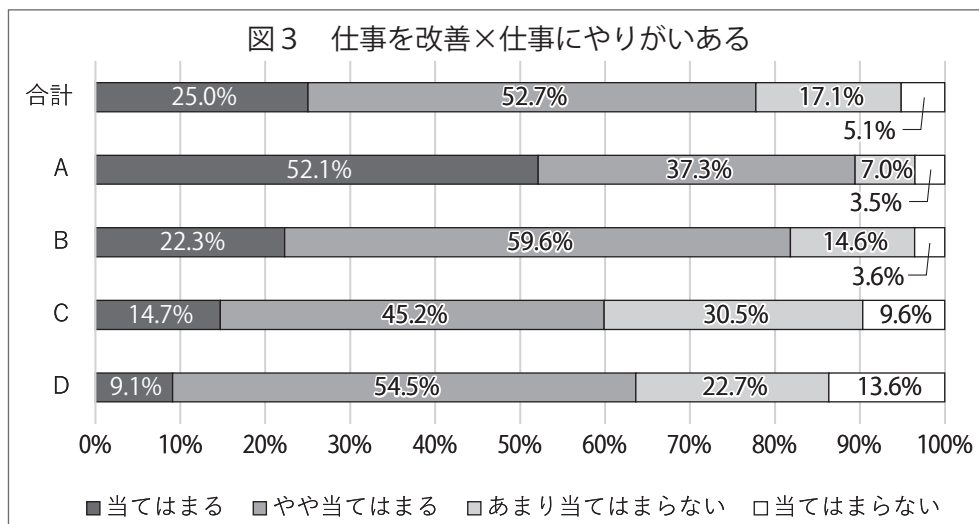


図4は、仕事の改善と「仕事を通じて達成感を味わうことができる」との関係を示したものである。仕事の改善に取り組んでいる職場では、55.6%の人が仕事を通じて達成感を味わうことができていると回答した。他方、仕事の改善に取り組んでいない職場では22.7%の人が達成感を感じていないとしている。この図からもPDCAサイクルを回して仕事を改善することの重要性を知ることができる。

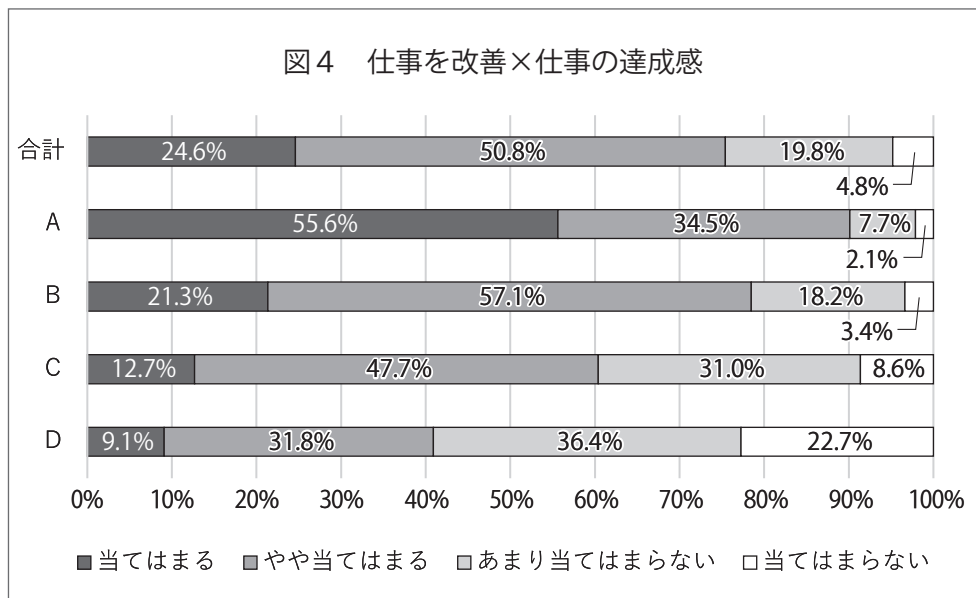


図5は、仕事を改善していることと仕事を通して、自分が成長していることとの関係をまとめたものである。PDCAサイクルを回して仕事の改善に取り組んでいる職場では、自分自身の成長を感じられる人が59.2%になっている。仕事を改善していない職場で自分の成長を感じられない人は4.5%である。この図から、仕事の改善に取り組むことは成長実感に大きな影響を与えていると言える。

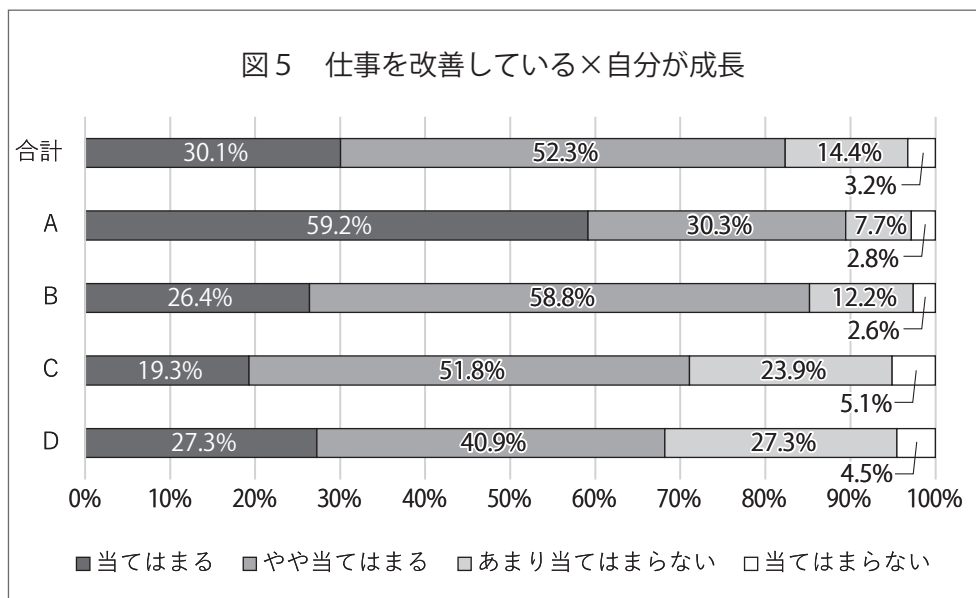
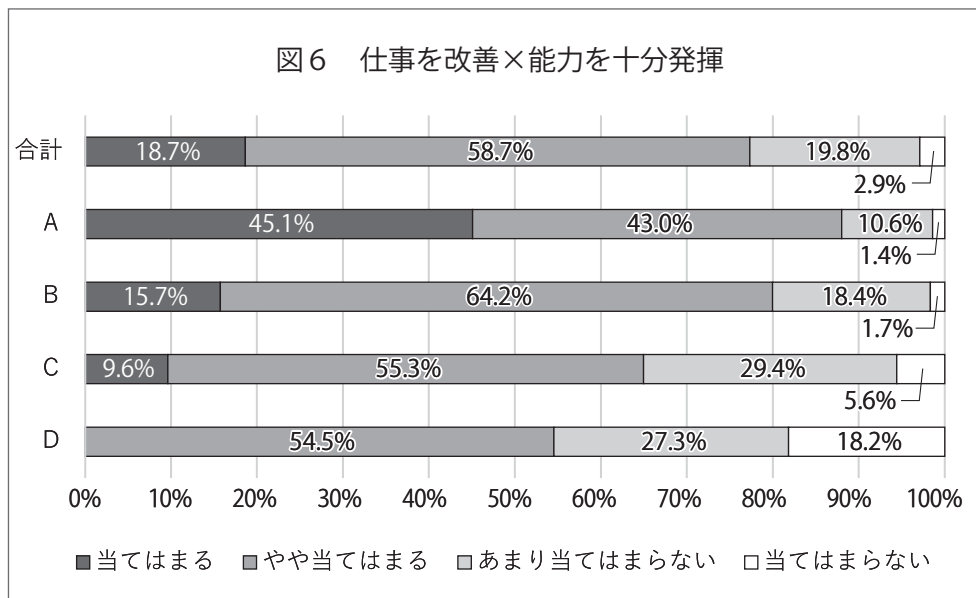


図6は、仕事を改善していることと自分の能力を十分発揮して働けていることとの関係を示したものである。仕事を改善している職場では45.1%の人が能力を十分に発揮して働けていると回答した。他方、仕事を改善していない職場で働いている場合、能力を十分に発揮できている人は皆無であった。能力発揮においても仕事を改善している職場であることが大切であることがわかる。



以上をまとめると次のようになる。PDCA サイクルを回して仕事を改善している職場では、仕事は面白い(47.9%)、仕事にやりがいがある(52.1%)、仕事を通じて達成感を味わうことができている(55.6%)、仕事を通じて自分が成長している(59.2%)、自分の能力を十分発揮して働けている(45.1%)となっている。仕事の改善に取り組むことは業務創造を生み出す重要な条件になっていると考えられる。